

## 1 昼・夜間人口

＝昼間人口は 31万人 (2.1%) 増加 しているが、  
 昼夜間人口比率は 1.4ポイント低下している＝

### (1) 東京都

東京都の昼間人口は 14,977,580人で、平成12年に比べ 310,681人 (2.1%) 増加しており、増加傾向が続いている。また、夜間人口は 12,415,786人で、398,533人 (3.3%) 増加している。

流入超過人口は 2,561,794人で、平成12年と比べ 87,852人減少している。

昼夜間人口比率は 120.6で、平成12年に比べ 1.4ポイント低下し、平成7年をピークに減少が続いている。

(表1-1、図1、第1表)

表1-1 東京都の昼・夜間人口

(人、%、ポイント)

項目	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成12年～17年 増減数(増減率)
東京都昼間人口	11 751 623	12 668 732	13 359 511	13 493 885	13 997 649	14 483 495	14 571 809	14 666 899	14 977 580	310 681 ( 2.1)
東京都夜間人口	10 869 244	11 408 071	11 673 554	11 597 211	11 819 486	11 762 030	11 734 920	12 017 253	12 415 786	398 533 ( 3.3)
流入超過人口	882 379	1 260 661	1 685 957	1 896 674	2 178 163	2 721 465	2 836 889	2 649 646	2 561 794	△ 87 852
昼夜間人口比率	108.1	111.1	114.4	116.4	118.4	123.1	124.2	122.0	120.6	△ 1.4 (△ 1.1)

### (2) 区部

区部の昼間人口は 11,284,699人で、平成12年に比べ 159,564人 (1.4%) 増加している。また、夜間人口は 8,351,955人で、259,687人 (3.2%) 増加している。

流入超過人口は 2,932,744人で、平成12年と比べ 100,123人減少している。

昼夜間人口比率は 135.1で、平成12年に比べ 2.4ポイント低下した。

各区別の流入人口は千代田区が一番多く、次いで港区、中央区の順となっている。流出人口は世田谷区が一番多く、次いで江戸川区、練馬区の順である。

昼夜間人口比率は千代田区が 2,047.3と最も高く、次いで中央区が 659.5、港区が 489.4である。一方、葛飾区が 80.7と最も低く、次いで江戸川区が 81.8、練馬区が 82.4の順である。

区部の昼間人口は平成7年から12年までは減少が続いていたが平成17年は増加している。夜間人口は平成7年まで減少傾向であったが、平成12年から増加している。

(表1-2～6、図1、第1表)

表1-2 区部の昼・夜間人口

(人、%、ポイント)

項目	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成12年～17年 増減数(増減率)
区部昼間人口	10 039 935	10 447 198	10 725 386	10 613 454	10 958 178	11 287 948	11 191 345	11 125 135	11 284 699	159 564 ( 1.4)
区部夜間人口	8 893 094	8 840 942	8 646 520	8 336 303	8 346 709	8 099 153	7 935 211	8 092 268	8 351 955	259 687 ( 3.2)
流入超過人口	1 146 841	1 606 256	2 078 866	2 277 151	2 611 469	3 188 795	3 256 134	3 032 867	2 932 744	△ 100 123
昼夜間人口比率	112.9	118.2	124.0	127.3	131.3	139.4	141.0	137.5	135.1	△ 2.4 (△ 1.7)

表 1-3 流入人口の多い区 (人)

順位	区名	平成17年	区名	平成12年
1	千代田区	821 518	千代田区	827 939
2	港区	762 132	港区	720 057
3	中央区	575 030	新宿区	596 943
4	新宿区	550 027	中央区	595 292
5	渋谷区	401 537	渋谷区	419 649

表 1-4 流出人口の多い区 (人)

順位	区名	平成17年	区名	平成12年
1	世田谷区	269 796	世田谷区	292 984
2	江戸川区	198 502	練馬区	232 520
3	練馬区	196 344	杉並区	206 662
4	大田区	191 733	江戸川区	198 716
5	杉並区	186 775	大田区	190 667

表 1-5 昼夜間人口比率の高い区

順位	区名	平成17年	区名	平成12年
1	千代田区	2 047.3	千代田区	2 374.4
2	中央区	659.5	中央区	897.6
3	港区	489.4	港区	525.7
4	渋谷区	272.4	渋谷区	280.0
5	新宿区	253.5	新宿区	279.1

表 1-6 昼夜間人口比率の低い区

順位	区名	平成17年	区名	平成12年
1	葛飾区	80.7	練馬区	77.5
2	江戸川区	81.8	江戸川区	81.2
3	練馬区	82.4	葛飾区	81.9
4	杉並区	84.1	杉並区	82.1
5	足立区	86.6	足立区	86.9

### (3) 市郡部

市郡部の昼間人口は 3,663,705人で、平成12年に比べ 149,908人 (4.3%) 増加している。また、夜間人口は 4,035,094人で、137,749人 (3.5%) 増加している。

流出超過人口は 371,389人で、平成12年と比べ 12,159人減少している。

昼夜間人口比率は 90.8で、平成12年に比べ 0.6ポイント上昇した。

各市町村の流入人口は八王子市が一番多く、次いで町田市、立川市の順となっている。

流出人口は八王子市が一番多く、次いで町田市、調布市の順である。

昼夜間人口比率は武蔵野市が 112.3と最も高く、次いで立川市が 112.1、羽村市が 99.1である。一方、狛江市が 73.3と最も低く、次いで稲城市が 77.1、西東京市が 78.2の順である。

市郡部の昼間人口、夜間人口はともに増加傾向が続いている。

(表 1-7~11、図 1、第 1 表)

表 1-7 市郡部の昼・夜間人口

(人、%、ポイント)

項目	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成12年~17年 増減数(増減率)
市郡部昼間人口	1 676 045	2 188 165	2 599 960	2 846 639	3 005 672	3 162 993	3 348 098	3 513 797	3 663 705	149 908 ( 4.3)
市郡部夜間人口	1 940 558	2 533 862	2 993 047	3 227 234	3 439 190	3 630 552	3 767 632	3 897 345	4 035 094	137 749 ( 3.5)
流入超過人口	△ 264 513	△ 345 697	△ 393 087	△ 380 595	△ 433 518	△ 467 559	△ 419 534	△ 383 548	△ 371 389	12 159
昼夜間人口比率	86.4	86.4	86.9	88.2	87.4	87.1	88.9	90.2	90.8	0.6 ( 0.7)

表 1-8 流入人口の多い市町村 (人)

順位	市町村名	平成17年	市町村名	平成12年
1	八王子市	128 352	八王子市	135 821
2	町田市	85 774	町田市	82 198
3	立川市	76 263	立川市	73 675
4	武蔵野市	67 804	武蔵野市	71 221
5	府中市	66 784	府中市	70 447

表 1-9 流出人口の多い市町村 (人)

順位	市町村名	平成17年	市町村名	平成12年
1	八王子市	135 743	八王子市	134 162
2	町田市	126 132	町田市	128 355
3	調布市	76 392	調布市	76 174
4	府中市	75 943	府中市	75 638
5	西東京市	70 573	西東京市	75 045

表 1-10 昼夜間人口比率の高い市町村

順位	市町村名	平成17年	市町村名	平成12年
1	武蔵野市	112.3	武蔵野市	112.3
2	立川市	112.1	立川市	111.1
3	羽村市	99.1	八王子市	100.3
4	八王子市	98.7	国立市	99.0
5	国立市	98.2	府中市	97.7

表 1-11 昼夜間人口比率の低い市町村

順位	市町村名	平成17年	市町村名	平成12年
1	狛江市	73.3	狛江市	70.7
2	稲城市	77.1	東久留米市	76.5
3	西東京市	78.2	西東京市	78.0
4	東久留米市	78.5	東村山市	78.9
5	東村山市	79.7	東大和市	78.9

図 1 昼・夜間人口推移

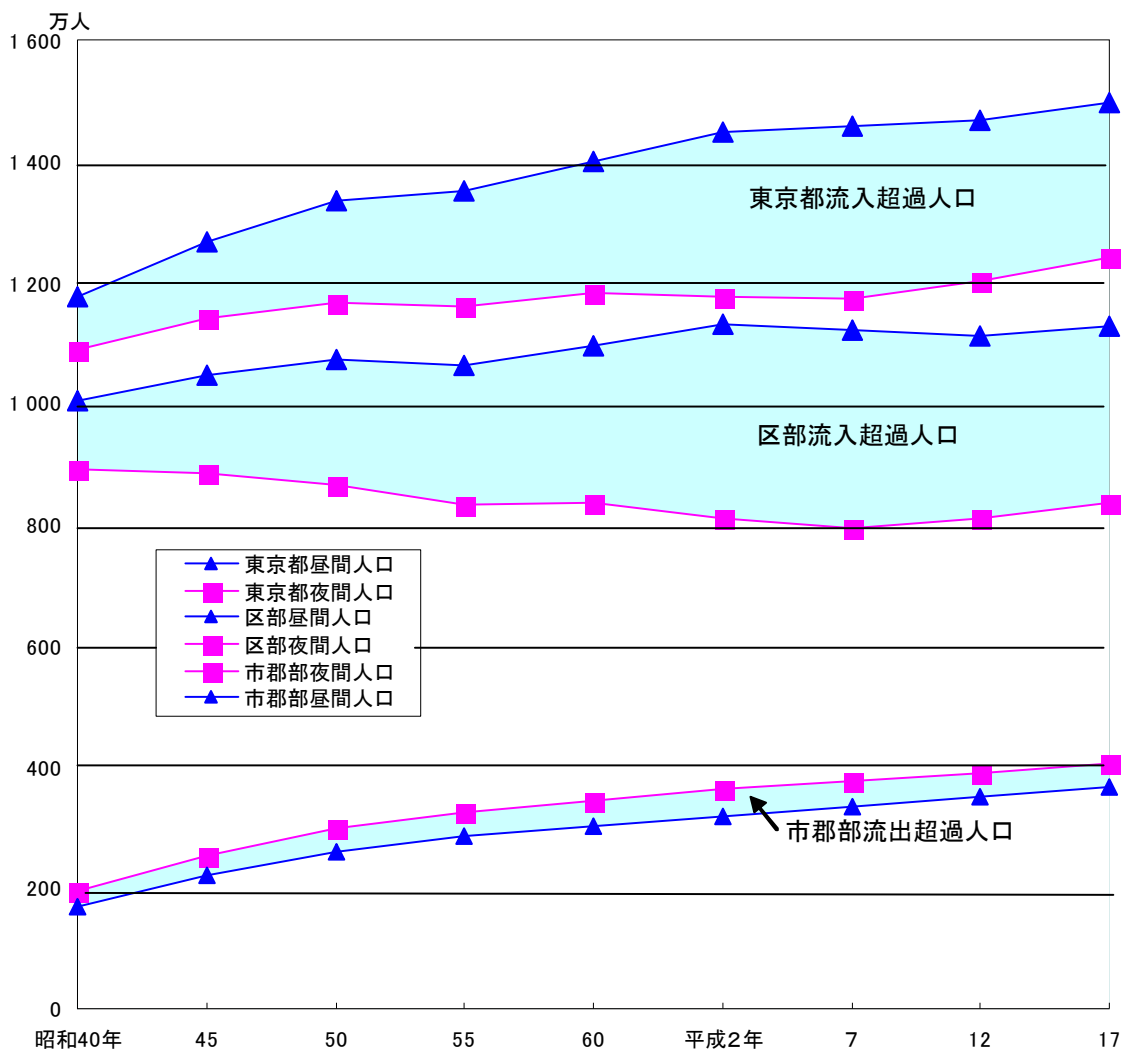


图2 区市町村別昼・夜間人口

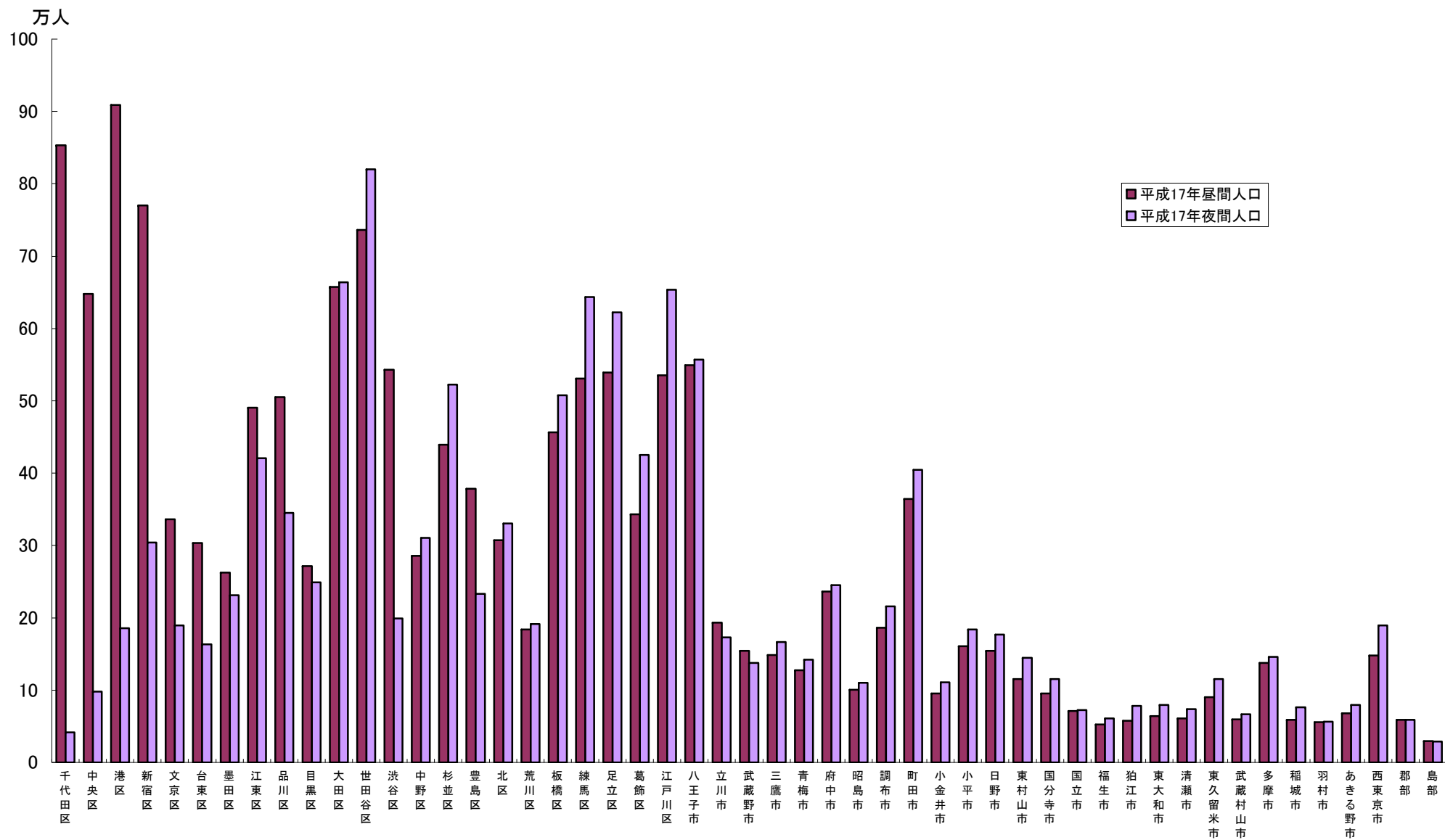


図3 昼夜間人口比率

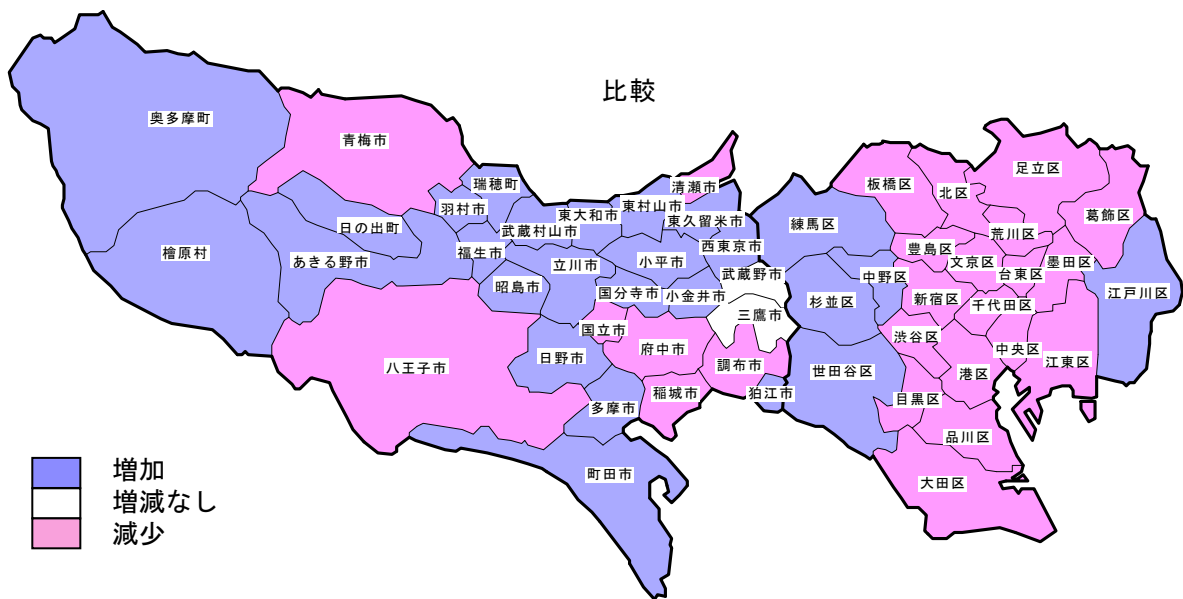
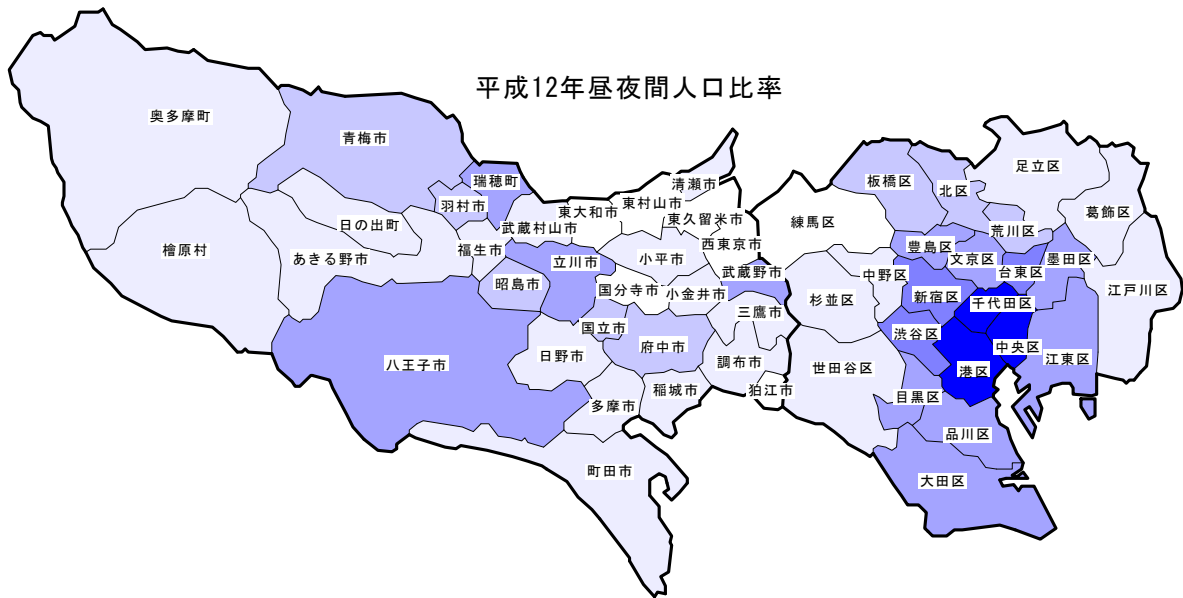
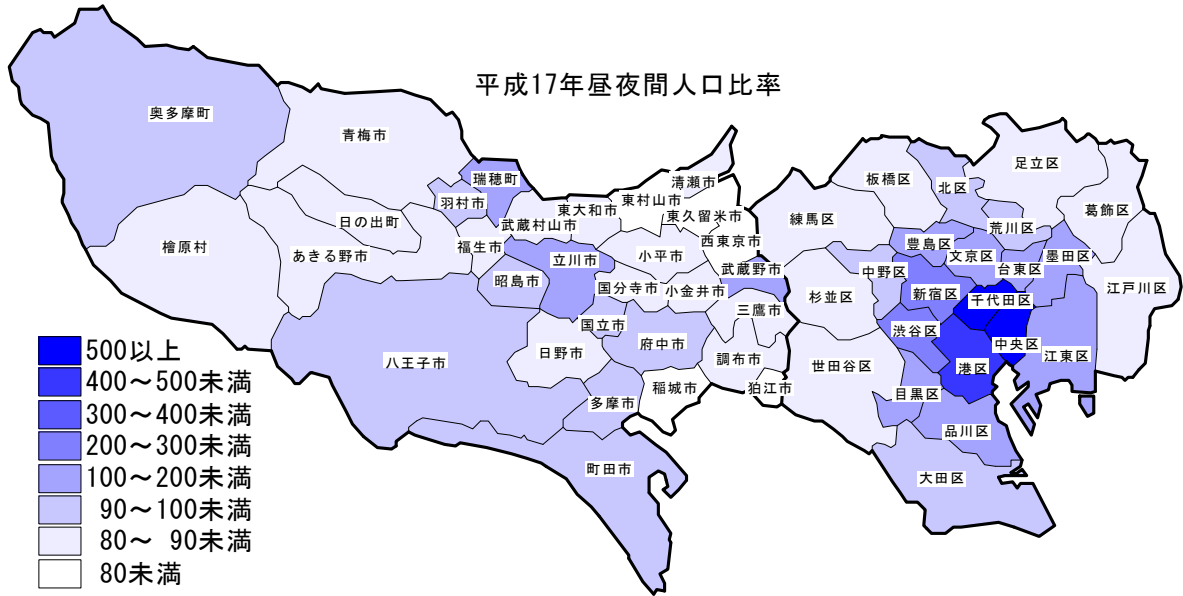
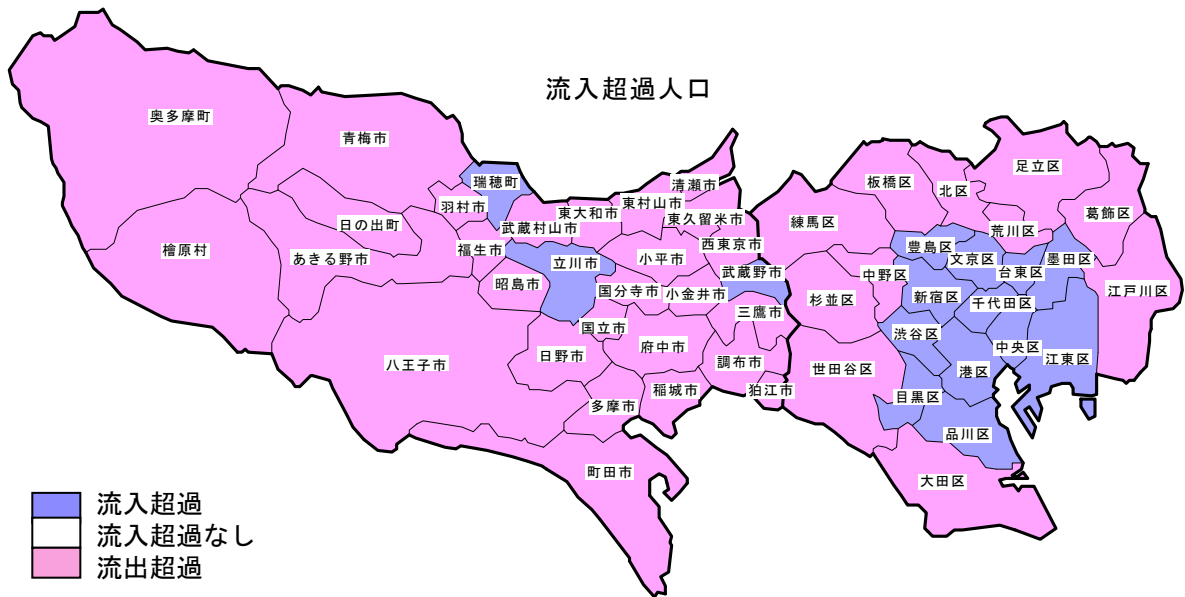
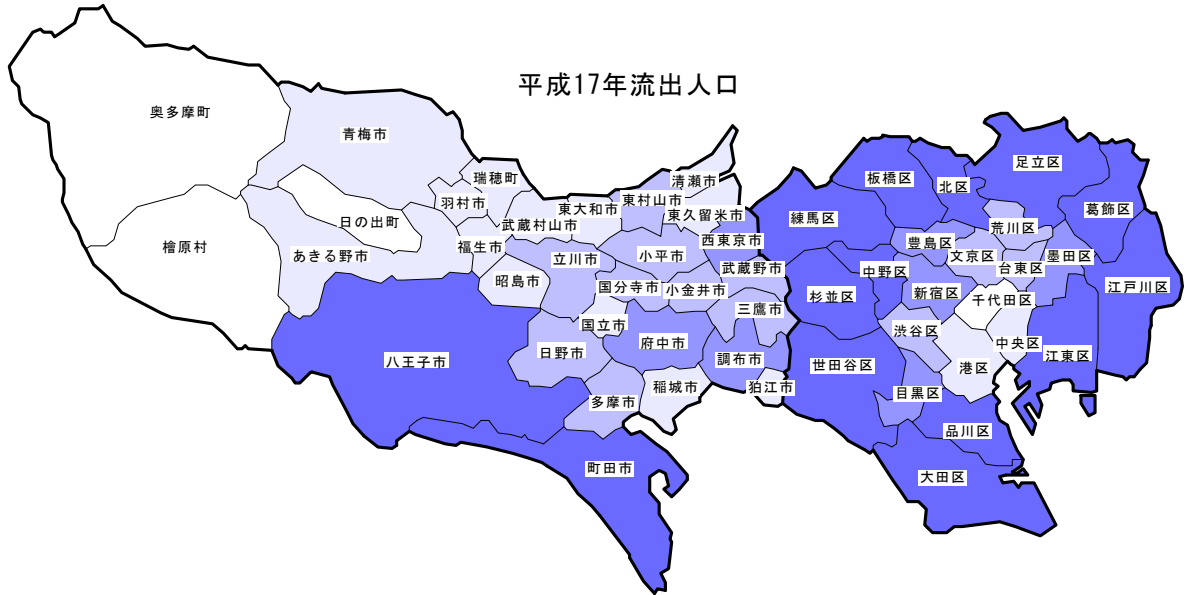
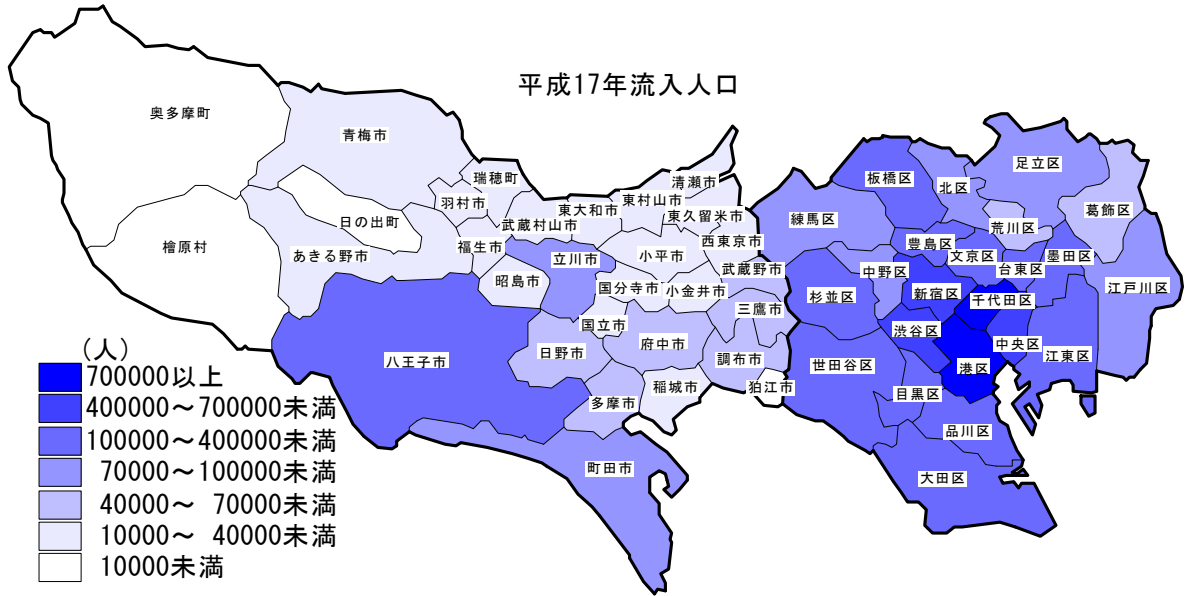


図4 流入人口・流出人口



## 2 就業者及び通学者

＝就業者及び通学者は昼間・常住とも減少し続けている＝

### (1) 就業者

昼間就業者は 8,205,300人で、平成12年に比べ 301,895人 (3.5%) 減少している。また、常住就業者は 5,915,533人で、242,844人 (3.9%) 減少している。

昼間就業者は常住就業者より 2,289,767人多いが、流入超過就業者は平成12年に比べ 59,051人の減少となり、平成12年から減少が続いている。

区市町村別にみると、昼間就業者は港区の 766,591人が最も多く、次いで千代田区の 755,057人、中央区の 595,546人の順となっている。市郡部では八王子市が最も多く 217,673人である。また、常住就業者は世田谷区の 376,593人が最も多く、次いで大田区の 342,925人、江戸川区の 311,625人の順となっている。市郡部では八王子市が最も多く 257,737人である。

(表2-1～3、図5、図6、第2表)

表2-1 就業者

(人、%)

項目	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成12年～17年 増減数(増減率)
昼間就業者	7 903 082	8 627 607	8 769 087	8 507 195	8 205 300	△ 301 895 (△ 3.5)
常住就業者	6 005 485	6 284 061	6 309 698	6 158 377	5 915 533	△ 242 844 (△ 3.9)
流入超過就業者	1 897 597	2 343 546	2 459 389	2 348 818	2 289 767	△ 59 051

表2-2 昼間就業者が多い区市町村

(人)

順位	区市町村名	平成17年	区市町村名	平成12年
1	港区	766 591	千代田区	753 645
2	千代田区	755 057	港区	724 784
3	中央区	595 546	中央区	613 987
4	新宿区	538 949	新宿区	580 646
5	渋谷区	390 276	渋谷区	405 318

表2-3 常住就業者が多い区市町村

(人)

順位	区市町村名	平成17年	区市町村名	平成12年
1	世田谷区	376 593	世田谷区	408 899
2	大田区	342 925	大田区	351 416
3	江戸川区	311 625	練馬区	324 075
4	足立区	306 317	江戸川区	322 320
5	練馬区	274 192	足立区	314 525

図5 昼間就業者が多い区市町村

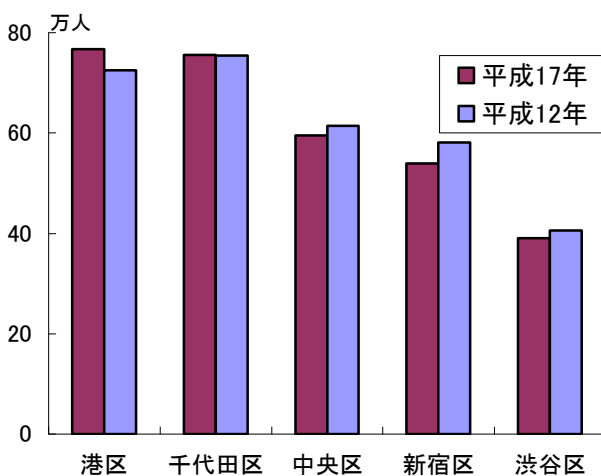
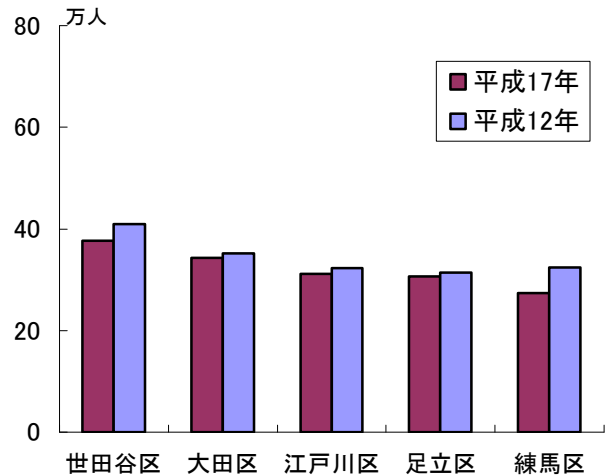


図6 常住就業者が多い区市町村



## (2) 通学者

昼間通学者は 1,729,370人で、平成12年に比べ 183,194人 (9.6%) 減少している。また、常住通学者は 1,457,343人で、154,393人 (9.6%) 減少している。

昼間通学者は常住通学者より 272,027人多いが、流入超過通学者は平成12年に比べ 28,801人の減少となり、減少傾向が続いている。

区市町村別にみると昼間通学者は、八王子市の 119,511人が最も多く、次いで世田谷区の 118,703人、新宿区の 97,824人の順となっている。また、常住通学者をみると、世田谷区の 94,912人が最も多く、次いで八王子市の 86,838人、江戸川区の 79,919人の順となっている。

(表2-4~6、図7、図8、第2表)

表2-4 通学者

(人、%)

項目	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成12年~17年 増減数(増減率)
昼間通学者	2 668 994	2 471 677	2 184 292	1 912 564	1 729 370	△ 183 194 (△ 9.6)
常住通学者	2 388 428	2 093 758	1 806 792	1 611 736	1 457 343	△ 154 393 (△ 9.6)
流入超過通学者	280 566	377 919	377 500	300 828	272 027	△ 28 801

表2-5 昼間通学者が多い区市町村

(人)

順位	区市町村名	平成17年	区市町村名	平成12年
1	八王子市	119 511	世田谷区	135 851
2	世田谷区	118 703	八王子市	135 123
3	新宿区	97 824	新宿区	112 901
4	千代田区	82 591	千代田区	90 964
5	文京区	71 253	文京区	79 539

表2-6 常住通学者が多い区市町村

(人)

順位	区市町村名	平成17年	区市町村名	平成12年
1	世田谷区	94 912	世田谷区	109 692
2	八王子市	86 838	八王子市	96 856
3	江戸川区	79 919	練馬区	90 084
4	練馬区	77 871	江戸川区	79 008
5	足立区	71 321	大田区	75 823

図7 昼間通学者が多い区市町村

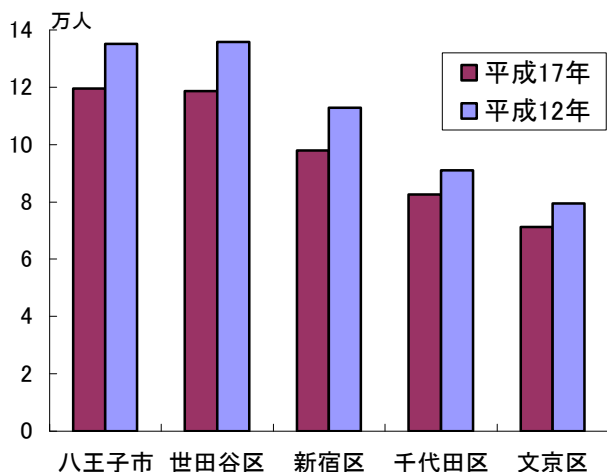
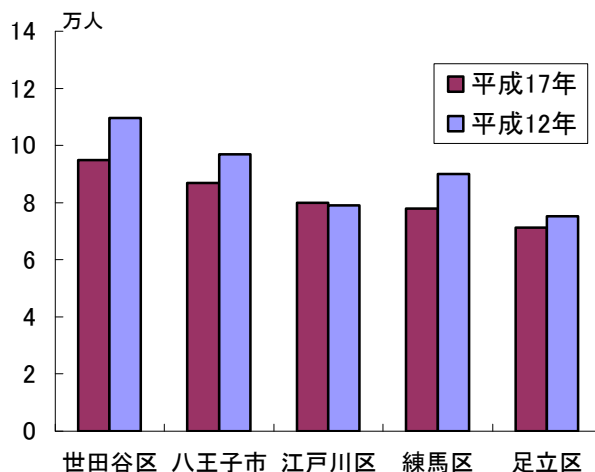


図8 常住通学者が多い区市町村





### 3 東京都の流入・流出口

＝流入人口・流出人口とも減少しているが、通勤者の流出人口は増加している＝

#### (1) 東京都への流入

流入人口は 3,051,277人であり、平成12年に比べ 93,367人 (3.0%) 減少している。また、構成比は神奈川県が 35.7%が最も高く、次いで埼玉県 33.1%、千葉県 25.8%の順となっている。

流入人口のうち通勤者は 2,704,196人で、平成12年に比べ 54,442人 (2.0%) 減少している。また、通学者は 347,081人であり、平成12年に比べ 38,925人 (10.1%) 減少となった。

通勤者は平成7年まで増加し、平成12年から減少している。また、通学者は平成2年まで増加し、平成7年から減少している。 (表3-1～2、図9、第3表)

表3-1 通勤・通学状態別流入人口の推移

(人、%)

項目	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成12年～17年 増減数 (増減率)	
総数	2 602 840	3 208 273	3 353 329	3 144 644	3 051 277	△ 93 367	(△ 3.0)
通勤者	2 225 785	2 724 334	2 874 699	2 758 638	2 704 196	△ 54 442	(△ 2.0)
通学者	377 055	483 939	478 630	386 006	347 081	△ 38 925	(△ 10.1)

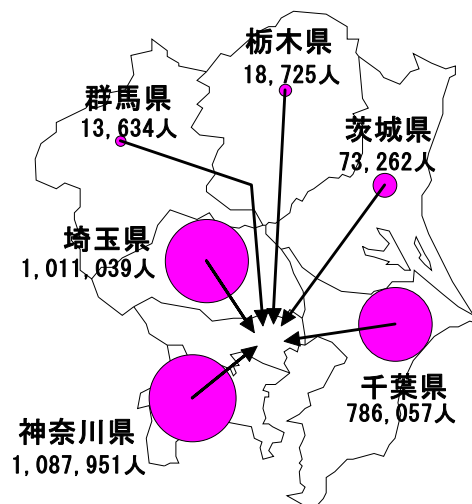
表3-2 東京都への流入人口の推移

(人、%)

常住地	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	12年～17年 増減数	平成17年 構成比
総数	2 602 840	3 208 273	3 353 329	3 144 644	3 051 277	△ 93 367	100
茨城県	62 049	76 297	85 914	79 314	73 262	△ 6 052	2.4
栃木県	13 075	15 699	19 338	18 796	18 725	△ 71	0.6
群馬県	7 892	9 458	12 831	12 545	13 634	1 089	0.4
埼玉県	863 051	1 091 786	1 161 339	1 074 322	1 011 039	△ 63 283	33.1
千葉県	702 168	860 890	894 478	826 848	786 057	△ 40 791	25.8
神奈川県	877 447	1 082 225	1 129 022	1 084 767	1 087 951	3 184	35.7
その他	56 273	47 937	50 407	48 052	60 609	12 557	2.0

注) 総数内訳の昭和60年と平成2年の数値には、通学者の15歳未満を含まない。

図9 東京都への流入



## (2) 東京都からの流出

流出人口は 489,483人であり、平成12年に比べ 5,515人 (1.1%) 減少している。また、構成比は神奈川県が 45.3%が最も高く、次いで埼玉県 30.3%、千葉県 17.9%の順となっている。

流出人口のうち通勤者は 414,429人で、平成12年に比べ 4,609人 (1.1%) 増加している。また、通学者は 75,054人であり、平成12年に比べ 10,124人 (11.9%) 減少となった。

通勤者は平成7年まで増加し、平成12年に減少したが、平成17年で再び増加している。また、通学者は平成2年に増加したものの、その後減少を続けている。

(表3-3~4、図10、第3表)

表3-3 通勤・通学状態別流出人口の推移

(人、%)

項目	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成12年~17年 増減数 (増減率)	
総数	424 677	486 808	516 440	494 998	489 483	△ 5 515	(△ 1.1)
通勤者	328 188	380 788	415 310	409 820	414 429	4 609	( 1.1)
通学者	96 489	106 020	101 130	85 178	75 054	△ 10 124	(△ 11.9)

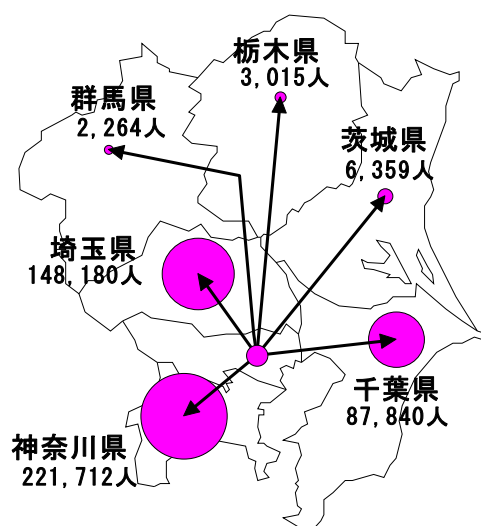
表3-4 東京都からの流出人口の推移

(人、%)

従業・通学地	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	12年~17年 増減数	平成17年 構成比
総数	424 677	486 808	516 440	494 998	489 483	△ 5 515	100
茨城県	5 982	6 429	6 525	6 369	6 359	△ 10	1.3
栃木県	1 903	2 298	2 753	2 811	3 015	204	0.6
群馬県	1 698	1 944	2 343	2 296	2 264	△ 32	0.5
埼玉県	125 156	148 354	154 431	150 659	148 180	△ 2 479	30.3
千葉県	72 505	86 474	95 911	90 234	87 840	△ 2 394	17.9
神奈川県	199 094	222 483	235 728	225 437	221 712	△ 3 725	45.3
その他	12 721	12 587	18 749	17 192	20 113	2 921	4.1

注) 総数内訳の昭和60年と平成2年の数値には、通学者の15歳未満を含まない。

図10 東京都からの流出



## 4 区部の流入・流出口

＝平成12年から流入人口・流出人口とも減少している＝

### (1) 区部への流入

流入人口は 3,354,289人であり、平成12年に比べ 116,216人 (3.3%) 減少している。また、構成比は神奈川県が 28.0%が最も高く、次いで埼玉県 27.3%、千葉県 22.9%の順となっている。

流入人口のうち通勤者は 3,017,032人であり、平成12年に比べ 73,441人 (2.4%) 減少している。また、通学者は 337,257人であり、平成12年に比べ 42,775人 (11.3%) 減少となった。

通勤者は平成7年まで増加し、平成12年から減少している。また、通学者は平成2年まで増加し、平成7年から減少している。(表4-1～2、図11、第4表)

表4-1 通勤・通学状態別流入人口の推移

(人、%)

項目	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成12年～17年 増減数(増減率)
総数	3 026 756	3 642 278	3 723 570	3 470 505	3 354 289	△ 116 216 (△ 3.3)
通勤者	2 603 519	3 132 961	3 247 869	3 090 473	3 017 032	△ 73 441 (△ 2.4)
通学者	423 237	509 317	475 701	380 032	337 257	△ 42 775 (△ 11.3)

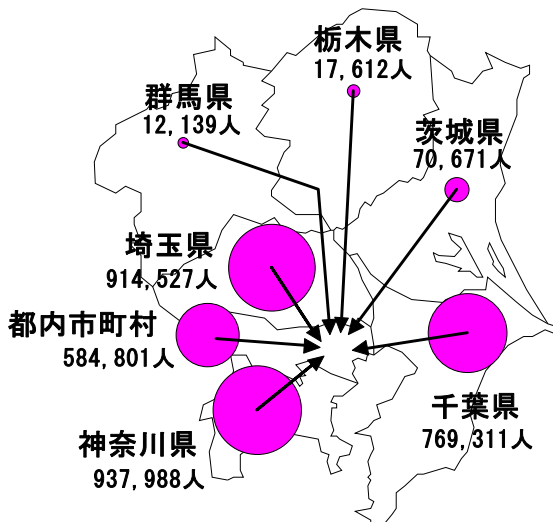
表4-2 区部への流入人口の推移

(人、%)

常住地	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	12年～17年 増減数	平成17年 構成比
総数	3 026 756	3 642 278	3 723 570	3 470 505	3 354 289	△ 116 216	100
都内市町村	596 312	672 536	660 229	611 666	584 801	△ 26 865	17.4
茨城県	60 972	74 679	83 497	76 750	70 671	△ 6 079	2.1
栃木県	12 706	15 081	18 431	17 782	17 612	△ 170	0.5
群馬県	7 429	8 741	11 591	11 413	12 139	726	0.4
埼玉県	797 599	1 004 542	1 056 861	971 487	914 527	△ 56 960	27.3
千葉県	691 561	845 314	875 937	808 627	769 311	△ 39 316	22.9
神奈川県	790 553	958 916	979 017	936 373	937 988	1 615	28.0
その他	46 945	36 435	38 007	36 407	47 240	10 833	1.4

注) 総数内訳の昭和60年と平成2年の数値には、通学者の15歳未満を含まない。

図11 区部への流入



## (2) 区部からの流出

流出人口は 421,545人であり、平成12年に比べ 16,093人 (3.7%) 減少している。また、構成比は神奈川県が 26.2%が最も高く、次いで埼玉県 23.7%、千葉県 19.1%の順となっている。

流出人口のうち通勤者は 334,921人で、平成12年に比べ 5,472人 (1.6%) 減少している。また、通学者は 86,624人であり、平成12年に比べ 10,621人 (10.9%) 減少となった。

通勤者は平成7年まで増加し、平成12年から減少している。また、通学者は平成2年まで増加し、平成7年から減少している。(表4-3~4、図12、第4表)

表4-3 通勤・通学状態別区部から流出人口の推移 (人、%)

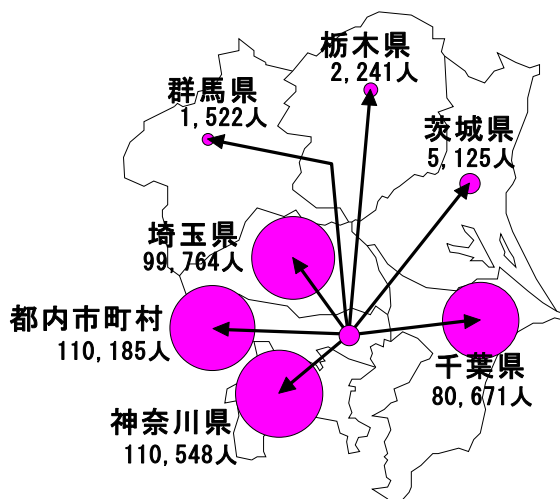
項目	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成12年~17年 増減数(増減率)	
総数	415 287	453 483	467 436	437 638	421 545	△ 16 093	(△ 3.7)
通勤者	297 299	330 675	351 861	340 393	334 921	△ 5 472	(△ 1.6)
通学者	117 988	122 808	115 575	97 245	86 624	△ 10 621	(△ 10.9)

表4-4 区部からの流出人口の推移 (人、%)

従業・通学地	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	12年~17年 増減数	平成17年 構成比
総数	415 287	453 483	467 436	437 638	421 545	△ 16 093	100
都内市町村	109 332	117 523	126 458	118 128	110 185	△ 7 943	26.1
茨城県	5 125	5 532	5 467	5 256	5 125	△ 131	1.2
栃木県	1 513	1 843	2 071	2 087	2 241	154	0.5
群馬県	1 243	1 342	1 527	1 501	1 522	21	0.4
埼玉県	92 084	105 124	107 183	103 058	99 764	△ 3 294	23.7
千葉県	67 683	79 803	88 026	82 787	80 671	△ 2 116	19.1
神奈川県	120 755	124 873	125 951	115 103	110 548	△ 4 555	26.2
その他の県	7 680	6 954	10 753	9 718	11 489	1 771	2.7

注) 総数内訳の昭和60年と平成2年の数値には、通学者の15歳未満を含まない。

図12 区部からの流出



## 5 通勤・通学者の移動状況

### =通勤・通学による移動人口は979万人=

通勤・通学による移動人口は 9,793,138人で、うち通勤者は 7,988,714人、通学者は 1,804,424人である。

このうち東京都に常住している通勤・通学者は 6,741,861人となっている。通勤・通学者の移動状況は、自区市町村が 2,780,443人、他の区市町村が 3,471,935人、他県が 489,483人となっている。

区部及び市郡部の移動状況をみると、自区市町村内で移動する通勤・通学者の割合は区部が 25.1%、市郡部が 37.1%と市郡部が高く、他県からの移動は区部が 38.4%、市郡部が 11.0%と区部が高くなっている。

(表5-1～3、第5表)

表5-1 東京都の移動状況

(人、%)

項目	移動人口	東京都に常住				他県に常住	
		総数	都内へ通勤・通学		他県へ通勤・通学	他県から通勤・通学	
			自区市町村	他の区市町村			
総数	9 793 138 (100)	6 741 861 (68.8)	2 780 443 (28.4)	3 471 935 (35.5)	489 483 (5.0)	3 051 277 (31.2)	
通勤者	7 988 714 (100)	5 284 518 (66.1)	1 861 822 (23.3)	3 008 267 (37.7)	414 429 (5.2)	2 704 196 (33.9)	
通学者	1 804 424 (100)	1 457 343 (80.8)	918 621 (50.9)	463 668 (25.7)	75 054 (4.2)	347 081 (19.2)	

注)本表の数値には自宅就業者を含まない。

表5-2 区部の移動状況

(人、%)

項目	移動人口	区部に常住				他県に常住	
		総数	都内へ通勤・通学		他県へ通勤・通学	他県から通勤・通学	
			自区	他の区市町村			
総数	7 210 920 (100)	4 441 432 (61.6)	1 812 559 (25.1)	2 317 513 (32.1)	311 360 (4.3)	2 769 488 (38.4)	
通勤者	6 039 238 (100)	3 537 853 (58.6)	1 254 443 (20.8)	2 022 951 (33.5)	260 459 (4.3)	2 501 385 (41.4)	
通学者	1 171 682 (100)	903 579 (77.1)	558 116 (47.6)	294 562 (25.1)	50 901 (4.3)	268 103 (22.9)	

注)本表の数値には自宅就業者を含まない。

表5-3 市郡部の移動状況

(人、%)

項目	移動人口	市郡部に常住				他県に常住	
		総数	都内へ通勤・通学		他県へ通勤・通学	他県から通勤・通学	
			自市町村	他の区市町村			
総数	2 567 090 (100)	2 285 656 (89.0)	953 157 (37.1)	1 154 387 (45.0)	178 112 (6.9)	281 434 (11.0)	
通勤者	1 937 176 (100)	1 734 706 (89.5)	595 451 (30.7)	985 292 (50.9)	153 963 (7.9)	202 470 (10.5)	
通学者	629 914 (100)	550 950 (87.5)	357 706 (56.8)	169 095 (26.8)	24 149 (3.8)	78 964 (12.5)	

注)本表の数値には自宅就業者を含まない。

## 6 産業別就業者数

### ＝昼間就業者 821万人のうち 78.0%が第3次産業就業者＝

昼間就業者 8,205,300人のうち第1次産業就業者は 26,664人 (0.3%)、第2次産業就業者は 1,537,237人 (18.7%)、第3次産業就業者は 6,403,410人 (78.0%) となっている。

昼間就業者を産業(大分類)別にみると、サービス業(他に分類されないもの)が 1,571,512人と最も多く、次いで卸売・小売業 1,493,255人、製造業 985,082人、情報通信業 707,114人、建設業 550,366人の順である。

常住就業者を産業(大分類)別にみると、サービス業(他に分類されないもの)が 1,115,012人と最も多く、次いで卸売・小売業 1,065,043人、製造業 706,718人、医療、福祉 447,029人、建設業 401,116人の順となっている。

昼夜間人口比率は情報通信業が 178.9と最も高く、次いで金融・保険業 169.6、電気・ガス・熱供給・水道業 161.3の順となっている。一方、農業が 101.8と最も低く、次いで林業 104.4、医療、福祉 114.7の順となっている。(表6、第6表)

表6 昼・夜間人口における産業(大分類)別就業者

(人、%)

産業大分類	昼間就業者	流入通勤者	流出通勤者	常住就業者	昼夜間人口比率	構成比			
						昼間	流入	流出	常住
総数	8 205 300	2 704 196	414 429	5 915 533	138.7	100	100	100	100
第1次産業	26 664	1 492	717	25 889	103.0	0.3	0.1	0.2	0.4
農業	25 258	1 103	655	24 810	101.8	0.3	0.0	0.2	0.4
林業	307	42	29	294	104.4	0.0	0.0	0.0	0.0
漁業	1 099	347	33	785	140.0	0.0	0.0	0.0	0.0
第2次産業	1 537 237	550 894	122 621	1 108 964	138.6	18.7	20.4	29.6	18.7
鉱業	1 789	726	67	1 130	158.3	0.0	0.0	0.0	0.0
建設業	550 366	184 172	34 922	401 116	137.2	6.7	6.8	8.4	6.8
製造業	985 082	365 996	87 632	706 718	139.4	12.0	13.5	21.1	11.9
第3次産業	6 403 410	2 112 051	284 634	4 575 993	139.9	78.0	78.1	68.7	77.4
電気・ガス・熱供給・水道業	30 419	13 207	1 651	18 863	161.3	0.4	0.5	0.4	0.3
情報通信業	707 114	335 564	23 671	395 221	178.9	8.6	12.4	5.7	6.7
運輸業	410 866	152 675	30 862	289 053	142.1	5.0	5.6	7.4	4.9
卸売・小売業	1 493 255	489 724	61 512	1 065 043	140.2	18.2	18.1	14.8	18.0
金融・保険業	366 796	163 018	12 540	216 318	169.6	4.5	6.0	3.0	3.7
不動産業	232 411	61 070	7 763	179 104	129.8	2.8	2.3	1.9	3.0
飲食店、宿泊業	452 670	89 029	12 285	375 926	120.4	5.5	3.3	3.0	6.4
医療、福祉	512 805	94 399	28 623	447 029	114.7	6.2	3.5	6.9	7.6
教育、学習支援業	331 719	92 423	30 359	269 655	123.0	4.0	3.4	7.3	4.6
複合サービス事業	52 302	12 926	1 381	40 757	128.3	0.6	0.5	0.3	0.7
サービス業(他に分類されないもの)	1 571 512	520 919	64 419	1 115 012	140.9	19.2	19.3	15.5	18.8
公務(他に分類されないもの)	241 541	87 097	9 568	164 012	147.3	2.9	3.2	2.3	2.8
分類不能の産業	237 989	39 759	6 457	204 687	116.3	2.9	1.5	1.6	3.5

注) 昼夜間人口比率＝昼間就業者÷常住就業者×100

## 7 男女、年齢別昼・夜間人口

＝昼間就業者、流入就業者ともに性比は平成2年以降減少し続けている＝

### (1) 男女別構成

昼間人口を男女別にみると、男性は7,960,149人、女性は7,017,431人であり、平成12年に比べ男性は90,615人(1.2%)、女性は220,066人(3.2%)の増加となっている。

昼間人口の性比(女性100人に対する男性の数)は113.4で、平成12年に比べ2.4ポイント低下している。

また、昼間就業者の性比は165.5となっており、平成12年に比べ7.8ポイント低下しており、昭和60年以降低下し続けている。

流入就業者の性比は260.7で、平成12年に比べ14.9ポイント低下している。

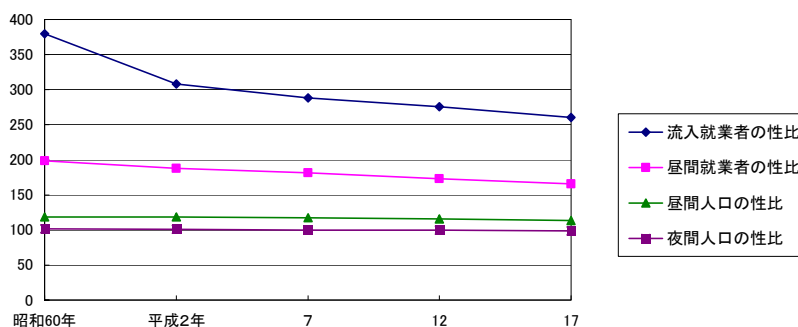
(表7-1、図13、第7表)

表7-1 男女、昼・夜間人口及び性比の推移

(人、%、ポイント)

項目	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	H12~H17増減数(増減率)
男性						
夜間人口	5 948 536	5 904 578	5 866 366	5 998 041	6 171 313	173 272 ( 2.9)
昼間人口	7 596 831	7 860 059	7 877 961	7 869 534	7 960 149	90 615 ( 1.2)
昼間就業者	5 258 350	5 630 817	5 651 763	5 394 688	5 114 391	△ 280 297 (△ 5.2)
流入就業者	1 761 868	2 056 609	2 134 238	2 024 110	1 954 514	△ 69 596 (△ 3.4)
女性						
夜間人口	5 870 950	5 857 452	5 868 554	6 019 212	6 244 473	225 261 ( 3.7)
昼間人口	6 400 818	6 623 436	6 693 848	6 797 365	7 017 431	220 066 ( 3.2)
昼間就業者	2 644 732	2 996 790	3 117 324	3 112 507	3 090 909	△ 21 598 (△ 0.7)
流入就業者	463 917	667 725	740 461	734 528	749 682	15 154 ( 2.1)
夜間人口の性比	101.3	100.8	100.0	99.6	98.8	△ 0.8 (△ 0.8)
昼間人口の性比	118.7	118.7	117.7	115.8	113.4	△ 2.4 (△ 2.1)
昼間就業者の性比	198.8	187.9	181.3	173.3	165.5	△ 7.8 (△ 4.5)
流入就業者の性比	379.8	308.0	288.2	275.6	260.7	△ 14.9 (△ 5.4)

図13 人口性比の推移



### (2) 年齢別構成

年齢別構成をみると、区部の構成が東京都全体に大きく影響している。

また、年齢別に昼夜間人口の割合をみると、区部では全ての年齢で昼間人口が夜間人口を上回っているが、市部では昼夜間人口の差が小さく、20歳以上では全ての年齢階級で夜間人口が多くなっている。

(表7-2~4、図14、図15、図16、第7表)

表7-2 東京都の男女別昼・夜間人口

(人)

年 齢	男 性		女 性	
	昼間人口	夜間人口	昼間人口	夜間人口
総 数	7 960 149	6 171 313	7 017 431	6 244 473
15 歳 未 満	736 107	728 982	705 699	695 685
15 ～ 19	344 886	288 446	344 971	274 522
20 ～ 24	589 471	449 576	556 902	410 166
25 ～ 29	678 734	508 302	619 111	472 928
30 ～ 34	798 069	573 146	672 894	548 543
35 ～ 39	758 428	529 690	575 242	496 326
40 ～ 44	670 465	460 461	478 319	424 685
45 ～ 49	553 985	378 960	396 506	357 696
50 ～ 54	575 915	393 422	414 068	376 632
55 ～ 59	687 076	472 951	503 439	465 718
60 ～ 64	514 330	396 362	435 696	417 060
65 ～ 69	377 502	334 449	378 369	371 495
70 ～ 74	295 463	281 675	333 001	330 725
75 ～ 79	198 786	195 032	256 993	256 325
80 ～ 84	107 910	107 073	178 852	178 665
85 歳 以 上	73 022	72 786	167 369	167 302

図14 男女別昼・夜間人口ピラミッド

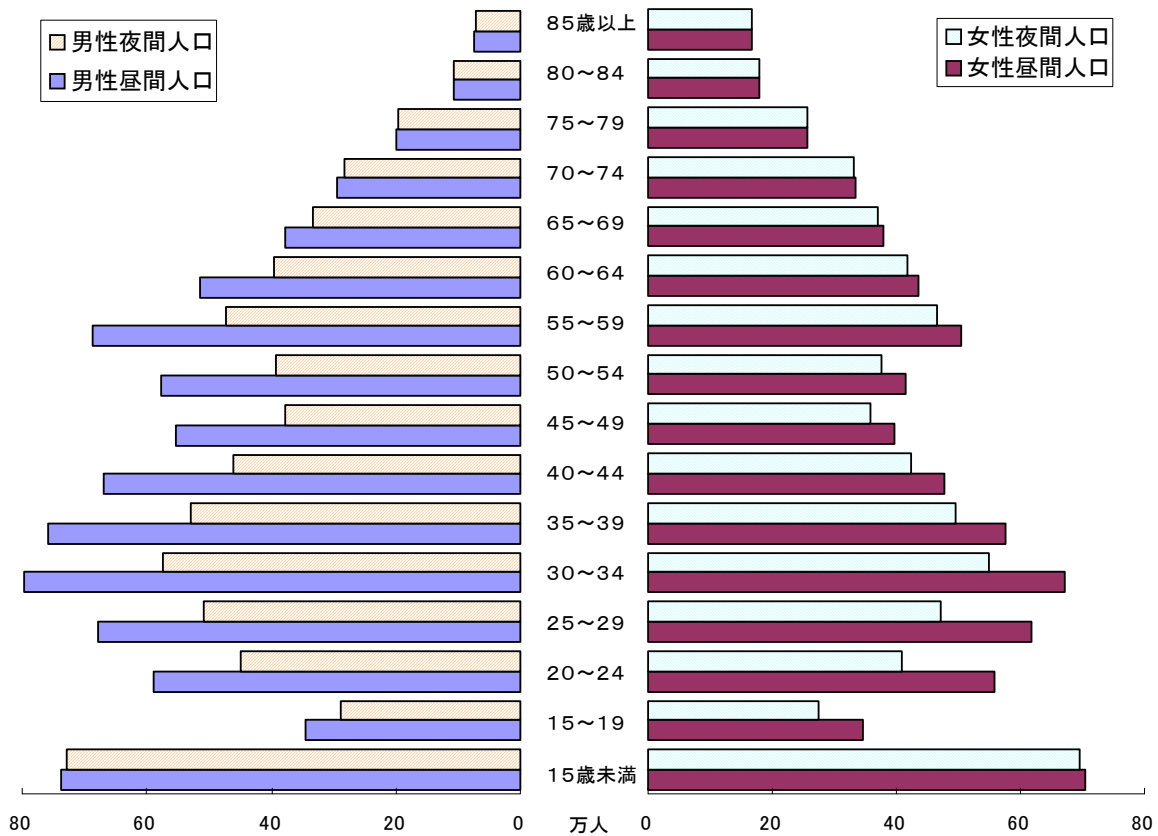




表7-3 区部の男女別昼・夜間人口

(人)

年 齢	男 性		女 性	
	昼間人口	夜間人口	昼間人口	夜間人口
総 数	6 194 164	4 131 550	5 090 535	4 220 405
15 歳 未 満	466 760	460 668	449 529	440 419
15 ～ 19	231 429	174 892	237 776	170 070
20 ～ 24	432 344	286 938	420 617	270 306
25 ～ 29	553 778	355 157	505 886	335 925
30 ～ 34	659 708	397 688	531 699	386 141
35 ～ 39	630 788	363 002	437 931	344 659
40 ～ 44	561 024	313 886	355 315	291 365
45 ～ 49	463 022	258 138	288 710	242 608
50 ～ 54	476 606	265 685	294 476	250 419
55 ～ 59	569 579	322 180	354 984	310 554
60 ～ 64	403 408	265 380	299 820	277 258
65 ～ 69	274 425	221 783	260 560	251 754
70 ～ 74	206 835	188 632	231 616	228 607
75 ～ 79	137 157	131 828	181 129	180 170
80 ～ 84	75 799	74 545	126 193	125 942
85 歳 以 上	51 502	51 148	114 294	114 208

図15 男女別昼・夜間人口ピラミッド

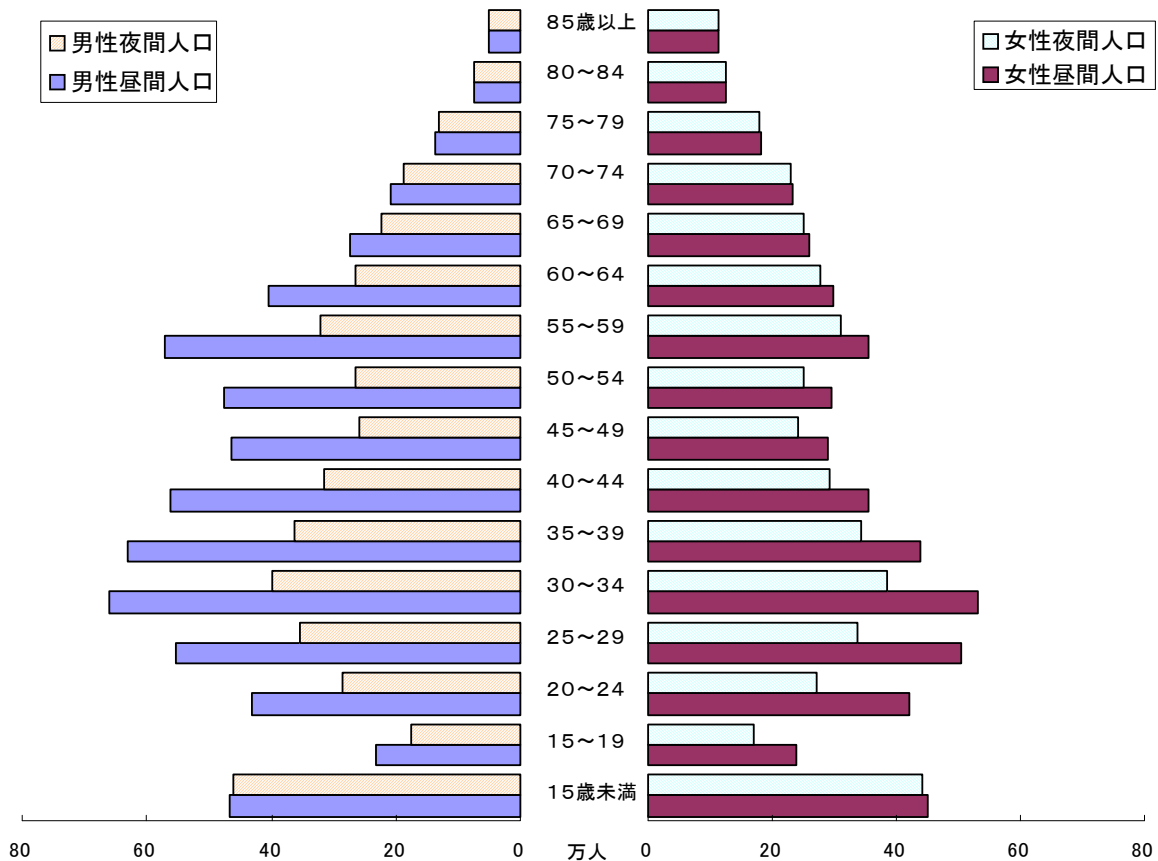
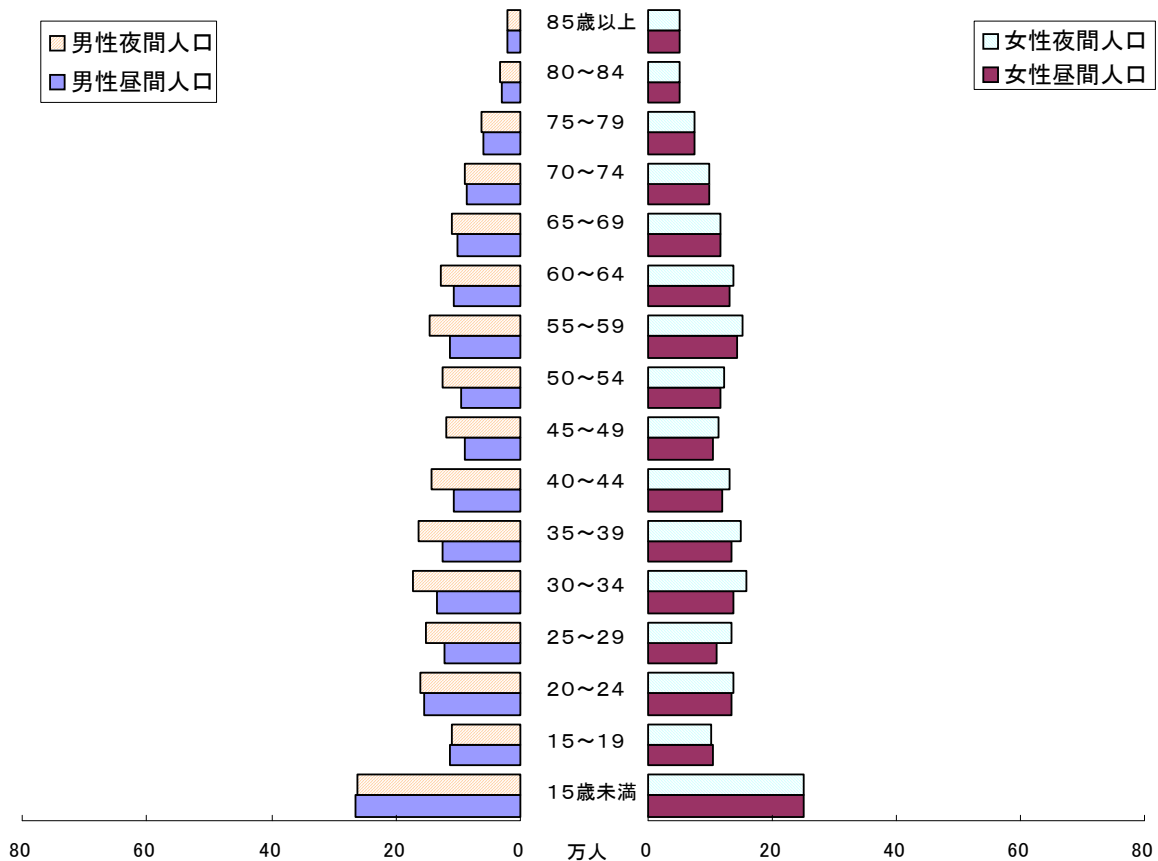


表7-4 市部の男女別昼・夜間人口

(人)

年 齢	男 性		女 性	
	昼間人口	夜間人口	昼間人口	夜間人口
総 数	1 720 770	1 995 472	1 884 111	1 980 534
15 歳 未 満	263 724	262 633	250 922	249 976
15 ～ 19	112 263	111 441	105 919	102 474
20 ～ 24	155 373	160 412	134 933	138 013
25 ～ 29	122 332	150 733	111 190	134 766
30 ～ 34	134 655	172 340	138 467	159 683
35 ～ 39	124 147	163 830	134 815	149 254
40 ～ 44	106 334	143 842	120 551	130 970
45 ～ 49	87 876	117 985	105 305	112 689
50 ～ 54	95 759	124 193	116 348	123 079
55 ～ 59	113 273	146 436	144 499	151 321
60 ～ 64	107 231	127 459	132 497	136 543
65 ～ 69	100 109	109 834	115 020	117 001
70 ～ 74	86 141	90 633	98 665	99 408
75 ～ 79	59 791	61 392	73 487	73 782
80 ～ 84	31 037	31 466	50 708	50 770
85 歳 以 上	20 725	20 843	50 785	50 805

図16 男女別昼・夜間人口ピラミッド



## 8 昼・夜間人口重心

平成17年10月1日現在の昼間人口重心は北緯 35° 40′ 43″、東経 139° 40′ 1″ にあり、平成12年の調査時より南西に約 180m移動し、地図上では中野区南台5丁目付近にある。また、同日現在の夜間人口重心は北緯 35° 41′ 14″、東経 139° 38′ 07″ の杉並区成田東2丁目付近にあり、平成12年の調査時より南東に約96m移動している。

(表8、図17)

表8 東京都の人口重心の変遷

区分	年次	北緯	東経	位置			進行方向	距離(m)
昼間人口	昭和	30年	35° 40′ 38″	139° 42′ 22″	渋谷区	代々木1丁目	付近	※
		35	35° 40′ 43″	139° 42′ 27″	〃	千駄ヶ谷5丁目	〃	北東 200 ※
		40	35° 40′ 50″	139° 42′ 2″	〃	代々木2丁目	〃	西北西 670 ※
		45	35° 40′ 50″	139° 41′ 29″	新宿区	西新宿3丁目	〃	西北西 830 ※
		50	35° 40′ 49″	139° 41′ 2″	渋谷区	本町2丁目	〃	西 680
	平成	55	35° 40′ 48″	139° 40′ 40″	〃	本町5丁目	〃	西 550
		60	35° 40′ 45″	139° 40′ 36″	〃	幡ヶ谷3丁目	〃	南西 140
		2	35° 40′ 43″	139° 40′ 30″	〃	幡ヶ谷3丁目	〃	西南西 160
		7	35° 40′ 42″	139° 40′ 17″	中野区	南台4丁目	〃	西 330
		12	35° 40′ 48″	139° 40′ 6″	〃	南台3丁目	〃	北西 330
17		35° 40′ 43″	139° 40′ 1″	〃	南台5丁目	〃	南西 180	
夜間人口		昭和	30年	35° 40′ 38″	139° 41′ 53″	渋谷区	代々木3丁目	付近
	35		35° 40′ 47″	139° 41′ 45″	〃	代々木3丁目	〃	北西 350 ※
	40		35° 40′ 57″	139° 41′ 8″	〃	本町4丁目	〃	西北西 980 ※
	45		35° 40′ 58″	139° 40′ 22″	中野区	南台2丁目	〃	西 1200
	50		35° 40′ 57″	139° 39′ 43″	杉並区	方南2丁目	〃	西 980
	55		35° 40′ 54″	139° 39′ 14″	〃	堀之内1丁目	〃	西南西 740
	60		35° 40′ 52″	139° 39′ 3″	〃	堀之内1丁目	〃	西南西 280
	平成	2	35° 40′ 54″	139° 38′ 45″	〃	大宮1丁目	〃	西北西 460
		7	35° 40′ 54″	139° 38′ 31″	〃	大宮2丁目	〃	西 360
		12	35° 41′ 1″	139° 38′ 29″	〃	成田東1丁目	〃	北西 230
		12	35° 41′ 16″	139° 38′ 04″	〃	成田東2丁目	〃	
		17	35° 41′ 14″	139° 38′ 07″	〃	成田東2丁目	〃	南東 96

注) 1 昼間人口及び夜間人口(平成12年まで)は区市町村の人口が全てその区市町村役所の位置にあると仮定して計算した。なお、経度、緯度については日本測地系の表示である。

2 ※は島部を除いて算出したものである。

3 夜間人口の平成12年と平成17年は総務省が平成19年6月25日に公表した基本単位区を中心とした数値であり、経度・緯度については、世界測地系の表示となっている。

図17 東京都の人口重心の推移



◎は日本測地系の昼間人口重心、○は日本測地系の夜間人口重心、●は世界測地系の夜間人口重心、数字は年次を表す